

「がん患者におけるビタミン B₁ 値」について

2019 年 7 月 5 日

【はじめに】

ビタミン B₁ (チアミン) は、糖をエネルギーに変換する際に必要な栄養素であり、著しい低下を来した際に認知機能にも影響を及ぼします。実際、がん患者において、ビタミン B₁ 欠乏によるウェルニッケ脳症が過去に報告されております。しかしながら、がん患者におけるビタミン B₁ 値の現状は明らかにされておられません。さらに、ビタミン B₁ を測定している施設は少ないのが実状です。本研究では、がん患者におけるビタミン B₁ 値を評価するために調査を行います。

【対象となる患者様とご協力いただきたいこと】

・対象となる患者様

東京大学医科学研究所附属病院において 2012 年 1 月 1 日から 2021 年 2 月 5 日の期間に入院し、がんと診断された患者様のうち、血清ビタミン B₁ を測定された患者様です。

・ご協力いただきたいこと

2021 年 2 月 5 日までの診療情報を本研究に使わせていただくことです。

用いる診療情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症、原疾患、併用薬、臨床検査値、化学療法施行歴 等

【研究方法】

東京大学医科学研究所附属病院に保管されている過去の上記診療情報を再検討します。

【個人情報保護の方法について】

診療情報や検査データを使わせていただくにあたりまして、直接患者様を識別できないような番号を用い匿名化します。解析はインターネット非接続の PC で行います。また得られた研究成果については常時施錠された薬剤部内の部門端末内もしくはパスワード管理された外部記憶装置に記録し保管します。

【研究期間】

所長・病院長許可日～ 2021 年 2 月末

【研究終了後の情報・データの取り扱いについて】

今回の研究に用いた情報・データが医学の発展に伴って、病気の診断や治療に新たな重要な情報をもたらす可能性がある場合には、情報・データを研究終了後も保存させていただき、倫理審査委員会の承認が得られた新たな研究等に使用させていただきたいと思っています。また、論文発表等をした場合には、他の研究者による研究成果の検証可能性を確保するために、東京大学医科学研究所では「東京大学医科学研究所生命科学系研究データ保存のガイドライン」を策定しております。これに基づき、発表後もデータを東京大学医科学研究所に長

期間保存させていただくことをご了承ください。その場合にも、全ての患者様の情報は引き続き匿名化し、厳重に保管いたします。

【研究成果の公表について】

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者様の個人情報厳重に守られますので、第三者に患者様の個人情報が明らかになることはありません。

この研究についての質問やご自身のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合、あるいは、本研究への診療情報の使用について辞退されたい場合、下記の窓口までお問い合わせ下さい。また、本研究について詳しくお知りになりたい場合には、研究計画書等の資料をご覧いただけますので（但し、他の対象者等の個人情報や知的財産の保護等に支障がない範囲内で）、お問い合わせください。

【お問い合わせ窓口】

東京大学医科学研究所附属病院 薬剤部 飯村 洋平

〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1 TEL:03-5449-5353 FAX:03-5449-5563

E-mail:yo.0519.hei@gmail.com